

[B年] 待降節第4主日(2021年12月19日)**【旧約聖書日課】サムエル記上2章1～10節**

1 ハンナは祈って言った。

「主にあつてわたしの心は喜び
主にあつてわたしは角を高く上げる。
わたしは敵に対して口を大きく開き
御救いを喜び祝う。

2 聖なる方は主のみ。

あなたと並ぶ者はだれもない。
岩と頼むのはわたしたちの神のみ。

3 驕り高ぶるな、高ぶって語るな。

思い上がった言葉を口にしてはならない。
主は何事も知っておられる神
人の行いが正されずに済むであろうか。

4 勇士の弓は折られるが

よるめく者は力を帯びる。

5 食べ飽きている者はパンのために雇われ

飢えている者は再び飢えることがない。
子のない女は七人の子を産み
多くの子をもつ女は衰える。

6 主は命を絶ち、また命を与え

陰府に下し、また引き上げてくださる。

7 主は貧しくし、また富ませ

低くし、また高めてくださる。

8 弱い者を塵の中から立ち上がらせ

貧しい者を芥の中から高く上げ
高貴な者と共に座に着かせ
栄光の座を嗣業としてお与えになる。

大地のもろもろの柱は主のもの

主は世界をそれらの上に据えられた。

9 主の慈しみに生きる者の足を主は守り

主に逆らう者を闇の沈黙に落とされる。
人は力によって勝つのではない。

10 主は逆らう者を打ち砕き

天から彼らに雷鳴をとどろかされる。
主は地の果てまで裁きを及ぼし
王に力を与え
油注がれた者の角を高く上げられる。1

【使徒書日課】ローマの信徒への手紙1章1～7節

1 キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び
出され、召されて使徒となったパウロから、——²
この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して
約束されたもので、³御子に関するものです。御子
は、肉によればダビデの子孫から生まれ、⁴聖なる
霊によれば、死者の中からの復活によって力ある

神の子と定められたのです。この方が、わたした
ちの主イエス・キリストです。⁵わたしたちはこの
方により、その御名を広めてすべての異邦人を信
仰による従順へと導くために、恵みを受けて使徒
とされました。⁶この異邦人の中に、イエス・キリ
ストのものとなるように召されたあなたがたもい
るのです。——⁷神に愛され、召されて聖なる者と
なったローマの人たち一同へ。わたしたちの父で
ある神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、
あなたがたにあるように。

【福音書日課】ルカによる福音書1章39～56節

³⁹そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向
かい、ユダの町に行った。⁴⁰そして、ザカリアの家
に入ってエリサベトに挨拶した。⁴¹マリアの挨拶
をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおど
った。エリサベトは聖霊に満たされて、⁴²声高らかに
言った。「あなたは女の中で祝福された方です。
胎内のお子さまも祝福されています。⁴³わたしの
主のお母さまがわたしのところに来てくださると
は、どういうわけでしょう。⁴⁴あなたの挨拶のお声
をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおど
りました。⁴⁵主がおっしゃったことは必ず実現す
ると信じた方は、なんと幸いでしょう。」

⁴⁶そこで、マリアは言った。

⁴⁷「わたしの魂は主をあがめ、
わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。

⁴⁸身分の低い、この主のはしためにも

目を留めてくださったからです。

今から後、いつの世の人も
わたしを幸いな者と言うでしょう、

⁴⁹力ある方が、

わたしに偉大なことをなさいましたから。

その御名は尊く、

⁵⁰その憐れみは代々に限りなく、

主を畏れる者に及びます。

⁵¹主はその腕で力を振るい、

思い上がる者を打ち散らし、

⁵²権力ある者をその座から引き降ろし、

身分の低い者を高く上げ、

⁵³飢えた人を良い物で満たし、

富める者を空腹のまま追い返されます。

⁵⁴その僕イスラエルを受け入れて、

憐れみをお忘れになりません、

⁵⁵わたしたちの先祖におっしゃったとおり、

アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」

⁵⁶マリアは、三か月ほどエリサベトのところに滞
在してから、自分の家に帰った。

「聖書協会共同訳」(2018年版) 読み比べ

サムエル記上2章1～10節

- 1 ハンナは祈って言った。
「私の心は主にあって喜び
私の角は主によって高く上げられます。
私は敵に向かって大きく口を開きます。
あなたの救いを喜び歌うために。」
- 2 主のように聖なる方はなく
あなたに並ぶ者はいません。
私たちの神のような岩はほかにありません。
- 3 あなたがたは驕り高ぶってはなりません。
思い上がって語ってはなりません。
その口から高慢な言葉を
取り除かなければなりません。
主はすべてを知っておられる神
人の行いを量られます。
- 4 勇士の弓は折られ
弱い者が力を帯びます。
- 5 満ち足りている者はパンのために雇われ
飢えている者はもはや飢えません。
子のない女が七人の子を産み
子だくさんの女は衰えます。
- 6 主は命を奪い、また命を与え
陰府に下し、また引き上げます。
- 7 主は貧しくし、また富ませ
低くし、また高めます。
- 8 弱い者を塵の中から立ち上がらせ
貧しい者を芥の中から引き上げ
高貴な者と共に座らせ
栄光の座を継がせてくださいます。
地のもろもろの柱は主のもの
主はそれらの上に世界を据えられました。
- 9 主はご自分に忠実な者の足を守られます。
悪人は闇の中に滅びうせます。
人は力によって勝つではありません。
- 10 主はご自分と争う者を打ち砕き
天から雷鳴をとどろかせます。
主は地の果てまで裁き
王に力を与え
油注がれた者の角を高く上げられます。」

ローマの信徒への手紙1章1～7節

1 キリスト・イエスの僕、使徒として召され、神の福音のために選び出されたパウロから、——2この福音は、神が聖書の中で預言者を通してあらかじめ約束されたものであり、3御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、

4聖なる霊によれば死者の中からの復活によって力ある神の子と定められました。この方が、私たちの主イエス・キリストです。5私たちは、この方により、その御名を広めてすべての異邦人を信仰による従順へと導くために、恵みを受けて使徒とされました。6あなたがたも異邦人の中にあって、召されてイエス・キリストのものとなったのです。——7ローマにいる、神に愛され、聖なる者として召されたすべての人たちへ。私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平和があなたがたにありますように。

ルカによる福音書1章39～56節

39その頃、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った。40そして、ザカリアの家に入ってエリサベトに挨拶をした。41マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子が踊った。エリサベトは聖霊に満たされて、42声高らかに言った。「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子様も祝福されています。43私の主のお母様が、私のところに来てくださるとは、何ということでしょう。44あなたの挨拶のお声を私が耳にしたとき、胎内の子が喜び踊りました。45主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。」

- 46そこで、マリアは言った。
47 「私の魂は主を崇め、
私の霊は救い主である神を喜びたたえます。」
- 48 この卑しい仕え女に
目を留めてくださったからです。
今から後、いつの世の人も
私を幸いな者と言うでしょう、
- 49 力ある方が、
私に大いなることをしてくださったからです。
その御名は聖であり
- 50 その慈しみ〔別訳→憐れみ〕は代々限りなく
主を畏れる者に及びます。
- 51 主は御腕をもって力を振るい、
思い上がる者を追い散らし、
- 52 権力ある者をその座から引き降ろし、
低い者を高く上げ、
- 53 飢えた人を良い物で満たし、
富める者を何も持たせずに追い払い
- 54 慈しみを忘れず
その僕イスラエルを助けてくださいました。
- 55 私たちの先祖に語られたとおり
アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」
- 56 マリアは、三か月ほどエリサベトと暮らして、家に帰った。

黙想のためのノート**次主日教会暦と聖書日課について**

・12月19日「待降節第4主日」の日課主題は「告知」。「待降節」最後の主日は、「降誕日(前夜)」を迎える「クリスマス週間」の始まりでもあり、「降誕物語」の端緒となる「受胎告知」の逸話が福音書日課として定められてきた。「降誕物語」は、「マタイ」および「ルカ」のみに伝えられており、主日聖書日課表のサイクルに関わらず、「待降節第4主日」から「降誕節第2主日」までは、もっぱらこの二つの福音書から主日日課が設定される。

・この日の旧約聖書日課は、「サムエル記上」から、「ハンナの祈り」の箇所。使徒書日課は、「ローマの信徒への手紙」から、冒頭挨拶の箇所。福音書日課は、「ルカによる福音書」から、受胎告知を受けたマリアがエリサベトのもとを訪ねて滞在した逸話と「マリアの賛歌(マニフィカト)」の箇所。

旧約日課(サムエル上2章より)

・「サムエル記」は、ヘブライ語正典「前の預言者」の第三巻として置かれたイスラエル・ユダ王国創生物語で、モーセ・ヨシュア以来の伝承を保持する「シロ神殿」の祭司であった預言者サムエルが指導的な立場でイスラエル諸部族の間に、最初はベニヤミン族出身のサウル王を、次いでユダ族出身のダビデ王を立て、王権に基づく王国を成立させる物語が展開する。元来一卷本の文書として作成されているが、ある時代から便宜上、サウル王の時代までとダビデ王の時代とに区分した上下巻に分けて扱われるようになった。

・「サムエル記」は、イスラエル・ユダの王国創生物語であり、サウル王とダビデ王が主要な登場人物となるが、その物語の背景に描かれるサムエルをはじめとする預言者らが重要な役回りを演じたものとして物語られているのが特徴である。特に重要な預言者らは、「シロ神殿」で伝承されてきた「神の箱」に象徴されるモーセ・ヨシュアの時代に遡る宗教的淵源としての「律法(主の言葉)」の保持者・伝達者として描かれる。ここで言われる「律法」は、いわゆる正典「律法」のような文書化されたものと同じではなく、あくまで「神の箱」を保持することによって古いモーセにまで遡る伝承保持者であることを主張することで権威付けられた「預言者の語る主の言葉」のことである。「サムエル記」に続く「列王記」は、この「シロ神殿」で保持されてきた伝承がサウル王、ダビデ王の時代を経て、ソロモン王の時代になって「エルサレム神殿」に継承されたと物語るのである。

・日課箇所は、預言者サムエルの誕生物語の一部で、サムエルの生母ハンナがシロ神殿での誓願の末に生んだ長子サムエルを神殿に預け、主の御手にゆだねたという逸話を受けて置かれた「ハンナの祈り」である。おそらく、「シロ神殿」の伝統継承を告げる祭儀で用いられるようになった典礼文に基づくものである。

・ハンナの物語は、旧約で特徴的に繰り返される不好の女性が子をもうけることになるという枠組みで構成されている。この枠組みに準拠した物語構成で特徴的なのは、女性が前面に描かれることである。「ハンナの祈り」も、実際の作者は不詳であるとしても、これを「ハンナ」という一人の女性に結びつけることに意義を見出した編者の意図があるはずである。

・この「ハンナの祈り」は、新約「ルカ福音書」の「マリアの賛歌(マニフィカト)」の下敷きになった資料であると考えられ、伝統的にセットで読まれてきた。

使徒書日課(ローマ1章より)

・「ローマの信徒への手紙」は、新約正典中「パウロ書簡集」の第一巻に置かれた文書で、使徒パウロがローマ教会に宛てて記した書簡。本書簡執筆時、パウロはまだ未訪であったローマ教会を訪問する計画を立てており、この書簡で自らの受け入れを要請すると共に、訪問後のエスパニア伝道計画への協力を求めている。聖書学的研究では、少なくとも1~15章で原本構成が保持されていることは共通認識となっているが、16章については研究者によっては疑義を呈する場合がある。

・日課箇所は、本書簡の冒頭挨拶の部分である。パウロがここで、御子の出自について二重の説明句(3節および4節)を置いていることから、「待降節」の日課として選ばれたと考えられる。すなわち、「御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ」というのは、マリアとヨセフ夫妻を両親として生まれ育ったということである。ただし、パウロは、これと対照するものとして、「聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められた」としており、「天地創造の初めのときからイエスは神の子と定められていた」というような神学は採用していない。正統教理では、5世紀カルケドン公会議で、キリストが「真の人であり、真の神である」という教理が取られるようになっているが、パウロがここで述べていることは、必ずしもこの正統教理に整合するものではない。

福音書日課(ルカ1章より)

・日課箇所は、二つの部分から成り、受胎告知を受けたマリアがエリサベトの家を訪問し滞在したという逸話が前半部、そのマリアに帰された賛歌が後半部となっている。物語構成上は、後半部の「マリアの賛歌」をマリア自身の言葉(祈り)として置いているが、たとえそうだとすると、それは、数十年後、主イエスの復活後の教会が歩み始めて以降にマリアが過去を振り返りながら語ったもの以上ではない。おそらくは、「マリア伝承」に基づいて使徒らの教会が「典礼賛歌」として整えたものをマリアに帰してここに置いているのだろう。「ルカ」の降誕物語中には、同様に、「ザカリアの賛歌(ベネディクトゥス)」(1:68以下)、「シメオンの賛歌(ヌンク・ディミティス)」(2:29以下)が置かれている。

・前半部(39~15 節)は、エリサベトとマリアの関係性を伝える逸話として置かれているが、おそらくそれだけのために置かれているのではない。前段(26~38 節)で、マリアは天使から受胎告知を受け、戸惑いながらも「お言葉どおり、この身に成りますように」(38 節)と応答しているが、これは、必ずしもマリアが自分の身に起こったことを全面的に受けとめたということの意味するものではなく、天使の告知を前にそう答えざるを得なかった言葉として理解すべきである。そのマリアに対して、彼女が置かれている状況を受け入れることができるようにと、ある種の客観的な承認行為として為されたのが、マリアの挨拶に対するエリサベトの応答なのである。エリサベトは、「マリアの挨拶によって自分の胎の子がおどった」と語ることによって、マリアの今置かれている状態を「祝福されたもの」と告げ、マリアに「客観的信仰」を与えているのである。そうであればこそ、この逸話物語は、続く「マリアの賛歌」というマリアの主体的な信仰告白を引き出し得たのである。

来週の誕生日 (12月19日~25日)

主日礼拝の讚美歌から

- ・21-231 番「久しく待ちにし」(= I 94)は、9 世紀のアンティフォン(交唱聖歌)に基づいて 13 世紀ごろに再構成、18 世紀に現在の形になった。原曲は 15 世紀フランスの女子修道院の歌集に見られる。
- ・21-182 番「ほめうた歌え」は、20 世紀英国教会司祭 M・ベリーが「ザカリアの賛歌(ベネディクトゥス)」を敷衍した詞。曲は、20 世紀米国長老派の教会音楽作曲家ハル・ホブソンがこの詞のために作曲。
- ・21-178 番「あがめます主を」は、20 世紀スリランカのメソジスト派牧師ナイルズが「マリアの賛歌(マニフィカト)」に基づいて作詞。ナイルズは、アジアキリスト教協議会の前身組織で書記、総幹事を務めた経歴の持ち主で、超教派運動を推進した。曲は、インドネシア・マルク地方の伝統曲による。
- ・21-240 番「主イエスは近いと」(II 48「主イエスは近しと」)は、古代ミラノ司教アンブロシウスの作詞とも言われるが、6 世紀の作詞者不詳の詞。19 世紀にモンクによって作曲された曲がつけられてから、英国教会系の讚美歌集で広く歌われるようになったアドヴェントの讚美歌。

21-231「久しく待ちにし」

Veni, Veni, Emmanuel

1. Veni, veni, Emmanuel / captivum solve Israel, / qui gemit in exsilio, / privatus Dei Filio. / Gaude! Gaude! Emmanuel, / nascetur pro te Israel!
2. Veni, O Sapientia, / quae hic disponis omnia, / veni, viam prudentiae / ut doceas et gloriae. / Gaude! Gaude! / Emmanuel, / nascetur pro te Israel!
3. Veni, veni, Adonai, / qui populo in Sinai / legem dedisti vertice / in maiestate gloriae. / Gaude! Gaude! Emmanuel, / nascetur pro te Israel!

4. Veni, O lesse virgula, / ex hostis tuos ungula, / de spectu tuos tartari / educ et antro barathri. / Gaude! Gaude! Emmanuel, / nascetur pro te Israel!
5. Veni, Clavis Davidica, / regna reclude caelica, / fac iter tutum superum, / et claude vias inferum. / Gaude! Gaude! Emmanuel, / nascetur pro te Israel!
6. Veni, veni O Oriens, / solare nos adveniens, / noctis depelle nebulas, / dirasque mortis tenebras. / Gaude! Gaude! Emmanuel, / nascetur pro te Israel!
7. Veni, veni, Rex Gentium, / veni, Redemptor omnium, / ut salvas tuos famulos / peccati sibi conscios. / Gaude! Gaude! Emmanuel, / nascetur pro te Israel!

21-182「ほめうた歌え」

Blessed be the God of Israel

1. Blest be the God of Israel, / who comes to set us free; / who visits and redeems us, / who grants us liberty. / The prophets spoke of mercy, / of freedom and release; / God shall fulfill that promise / and bring the people peace.
2. God from the house of David / a child of grace has given; / a Savior comes among us / to raise us up to heaven. / Before him goes the herald, / forerunner in the way, / the prophet of salvation, / the harbinger of day.
3. On those who sit in darkness / the sun begins to rise, / the dawning of forgiveness / upon the sinner's eyes. / God guides the feet of pilgrims / along the paths of peace. / O bless our God and Savior / with songs that never cease!

21-178「あがめます主を」

My Soul Doth magnify the Lord

1. My soul doth Magnify the Lord, / My spirit doth rejoice / In God my Saviour, for His word / Declared to me, the choice / Of His handmaiden to become / The mother of the Christ, / That for the son of God my home / And humble heart sufficed.
2. Behold, from henceforth to my name / Shall generation give / Their blessings, for the Lord who came / As man with man to live. / The mercy of our God is great / And great His deeds of love, / He looked upon man's low estate / And lifted him above.
3. The proud He scattered in their pride, / The rich must empty go, / The strong His strength doth set aside, / The mighty are brought low. / The humble are exalted high, / The hungry filled with food. / The God of Israel has drawn nigh, / The Lord, our God, is good

21-240「主イエスは近いと」

Vox clara ecce intonat

1. Vox clara ecce intonat, / obscura quaeque increpat: / procul fugentur somnia; / ab aethre Christus promicat.
2. Mens iam resurgat torpida / quae sorde exstat saucia; / sidus refulget iam novum, / ut tollat omne noxium.
3. E sursum Agnus mittitur / laxare gratis debitum; / omnes pro indulgentia / vocem demus cum lacrimis.
4. Secundo ut cum fulserit / mundumque horror cinxerit, / non pro reatu puniat, / sed nos pius tunc protegat.
5. Summo Parenti Gloria / Natoque sit victoria, / et Flamini laus debita / per saeculorum saecula. Amen.